

【第3ステージ開始（2020年）以後】

【社会情勢の変化】

- 新型コロナウイルス感染症（ニューノーマル・アフターコロナ）
- カーボンニュートラル宣言
- 大規模災害への対応（能登半島地震等）
- 「道の駅」制度創設30年
- 物流の2024年問題

【政府計画における「道の駅」の位置づけ】

- 2040年、道路の景色が変わる（地域センター機能、自動運転拠点、防災拠点）
- 国土形成計画（防災拠点化、リニューアル、子育て支援、EV充電施設普及）
- 国土強靱化基本計画（防災機能強化、高付加価値コンテナの活用、など）
- WISENET2050（拠点機能の強化）
- デジタルライフライン全国総合計画（モビリティ・ハブ、ドローンや自動運転サービスの拠点）

【第3ステージの中間レビュー】

※KPIの数値は 2019 → 2023

【世界ブランド化】

- 外国人観光案内所 10% → 23%
- キャッシュレス導入 40% → 81%
- ⇒ インパウンドの回復に伴う観光需要の増加に対応する取組の推進が必要

【防災拠点化】

- 道の駅BCP策定 3% → 9%
- 防災道の駅、防災拠点自動車駐車場を制度化
- ⇒ 災害への更なる対応力強化

【地域センター化】

- ベビーコーナー設置 4% → 20%
- ECや大学連携の進展
- ⇒ 「道の駅」に求められる多様なニーズへの対応が必要

【モデルプロジェクト】

次回
(第10回)
議論

第3ステージのコンセプト

『地方創生・観光を加速する拠点』『ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献』

地域が主体となり「まち」と「道の駅」が一体で目指すものを共有し、意志を持って、戦略的にコンセプトの実現を成し遂げている「道の駅」を第3ステージとして定義

今後の方向性

【Ⅰ：防災機能の一層の強化】

第2
ステージの
深化

今回
(第9回)
議論

第3
ステージの
発展

【Ⅱ：地方創生・観光を加速する拠点としての「道の駅」の更なる展開】
(Ⅱ-1：モデルプロジェクト) (Ⅱ-2：多様なニーズ・課題への対応)

次回
(第10回)
議論

展開

必要な制度改正（予算、法令等） / 「道の駅」登録・案内要綱の改定 / シンポジウム・書籍等による周知とアーカイブ